

## 序



悠久の時の流れの中で、私たちの先祖はこの地に生活を求め、長い年月、悲喜哀歓の歴史をつづりつつ、大きな遺産として「ふるさと」を残してまいりました。

今その軌跡をたどり、これを記録し、次の世代に伝えることは、急速な変化が進み古いものが次々と消えてゆく姿を見ると、この時代に生きる者の責務であると感じてきました。

そこで、町制施行六十周年記念事業の一つとして熊野町史刊行を企画し、町史刊行委員会および専門の先生方による町史編集委員会を設けて事業に取り組み、このほど本編を発刊することができました。この間、編集委員の方々の御尽力をはじめ関係者の積極的な御協力をいただき、また、多くの資料を心よく提供し御援助賜りましたことに対し、厚くお礼申し上げます。

年々歳々花相似

年々歳々人不同

唐の詩人は、天地の悠久、人の世の変遷をうたっています。近時、生命工学の進歩は新しい生命を

生み、科学技術の進歩は私たちの生活習慣を大きく変えてまいりました。  
四季を問わず、身边には新種の花が咲き香り、食膳には野菜が供され、季節感が薄くなりつつあります。

そして、人の心にも昔ながらの良風美俗が忘れられようとしています。今こそ、日本民俗の優れたもの、美しい心呼び戻し、次の世代へ伝承することを考えなければなりません。  
過去を顧みて明日を考えることは、心の糧を満たし、新しい英知と力をはぐくむものと考えます。

本書が、郷土を知り、ふるさとを愛する心をはぐくむ資料となると共に、伝統的工芸品として日本一を誇る熊野筆の町を広く紹介するよすがとして活用されることを願い、転機に立つ明日の熊野町に飛躍の活力を呼ぶことを祈り、序文といたします。

昭和六十二年六月

安芸郡熊野町長 南崎 高市